出席したが殘餘職工は口々に警官の横暴を叫んでゐる、而して住友伸銅所組合の米十俵及生越パン屋よりの辨當四百箇その他二三の寄附があつた一方共益社に於いては急遽東上した鈴木文治氏の打合せ如何に依つて關西勞働者は一擧し

場を合し出勤者三百名を算し會社側は軟化側日々增加するを誇つて居るが職工は朝來三間屋朝日倶樂部に集合し出勤簿に捺印したる上今夕天王寺公會堂で催す罷業批判演說會の準備を急いで居る、尚十七日正午迄に罷工團に對する金品の寄附は千三百六十圓二十錢を計上し外に醬油二樽もあつた（大阪電話）

十分飛報を聞付けた新町警察署では署長大内山氏を指揮者として私服廿名、制服巡査七十五名を前野氏方前方電車線路に面して配備し對岸には川口署員若干名阪口署長指揮の下に警戒してゐたが職工團は、四ツ橋を左折し北へ新町通りから裏新町へ出で前野氏方

の類を揮つて警官隊と入り亂れ肉の饗き、血の呻きは隨所に起り全く修羅場を現出した、折柄應援に驅付けた警官隊約三百名の爲めに職工の集團は追はれ西に東に白米の車を殘して引揚げた八時四十分物見高い附近の群衆と血糊に彩られ泥土を浴びた白服の警官隊のみを殘して靜寂に復つた

阪口川口署長負傷

警官側にも職工側にも數十名の負傷者を出す

警察側の負傷者は本部七百號の自動車運轉手市原利三郎が腹部に二箇所の突傷を受けたのを初めとして阪口川口署長は投石の爲めに左腕に打撲傷を受け新町署詰西之内巡査部長、藤丸、竹内の二巡査は左腕、落合、廣橋勇、山田、西川、久島の五巡査は頭部及び面部に負傷した外十餘名の輕傷者を出し職工側は松崎松藏、望月八郎外十餘名負傷し府救護班間屋橋の山本醫院等にて應急手當を受けた

造船課長邸襲る

南本部の一隊二百餘名

爭鬪の起る以前午後四時住吉の南本部から此集團に參ずる職工二百名餘は警察の配備の薄いのを見て玉出驛傍の藤永田造船所幹部社宅の一隅技師長鈴木中見氏宅を襲うて板塀を破り硝子二三十枚を破壞して引揚げたので前野氏宅の爭鬪後も一隊は再び玉出に現れると此の飛報に戎署魚森署長、今宮漆島署長、天王寺林警部等百餘名は前記鈴木氏外折茂、荒木、桂、糸山氏等の邸宅附近に深更迄警戒網を張りつゝあつた

檢束職工五十九名

騷擾建物損壞等で起訴されんか

大阪府警察部では十八日夜の紛擾に際して各署に檢束を加へた五十九名の職工に對し十九日朝來東署の村上、九條署の山田、若松町署の齋藤の各司法主任と刑事四十名、コレに刑事課及關係署の刑事

總出で取調を急ぎ一方裁判所よりは宮崎檢事新町署に出張し現場の檢證を行つた、暴行事實の確證を得れば騷擾、建造物損壞、傷害等の各罪にて夫々起訴されるらしい

鈴木文治氏遽かに歸東

十八日十時過の上り列車で

幹部の數氏を拉し去られた友愛會

たが當夜の警察隊指揮者大木警察官は絶對に否認してゐた

神戸の藤永田職工應援演說

神戸各勞働組合の聯合になる藤永田造船所罷工職工應援第三回大會は十八日午後七時から神戸湊川遊園地勸業館に開催和田惣平氏司會の下に實行委員行政長藏氏が經過報告をなし座長に印刷工組合久留弘三氏を推し三谷幸吉氏は宣言及び左の決議を朗讀した

決議

一、吾等は横斷組合を背景とせる團體交渉權の獲得を期す

二、吾等は産業民衆の精神に依つて勞働組合を基調とする工場委員制度の確立を主張す

かくて演說會に移り工夫組合の阪口氏、久留弘三氏友愛會大阪聯合會主事木村錠吉氏賀川豐彦氏其他の罷工演說があつて午後十時半散會した

兵學校生徒が爲替泥棒

江田島海軍兵學校一年生山口縣三田尻出身吉木光藏（十九）は同僚の爲替二十五圓を二回に亘つて竊取したことが發覺十九日呉海軍々法會議に送られた（呉來電）

呉海兵團流感蔓延

呉海兵團では流行性感冒漸次蔓延し新患者續出せるが十九日重症患者十一名を海軍病院に收容した（呉來電）

女房の劇藥自殺

福岡市石城町船問屋麻生清次郎妻さう（二十八）は十八日午後二時四十分自宅表二階で劇藥自殺を遂げた原因は家庭の不和から離縁話が持上つたのあると（福岡來電）